

# 渡辺だいすけ 奔走記

第12号

2022年7月

— 発行者 —

福井県議会議員

渡辺大輔

福井市新田塚1-70-31

TEL.0776-50-2083



県政報告

調査項目

活動報告

## ★不登校

現在、福井県内小中高の不登校児童生徒数は約1,200名。学校はこれまで、不登校の子ども達に対して、相談室や市町が運営する適応教室に通わせたりしながら、通常学級に戻す努力を行ってきました。しかし、依然として不登校は減りません。

そんな中、今注目されているのが**校内フリースクール**です。**自分たちの一番好きな場所を教室にします。**周囲に信頼が厚い教諭を担当として配置し、**多様な学びの場を保障し、社会的な自立に向けて支援する。****必ずしも通常学級への復帰は目指しません。**自分で設定した学習時間はタブレット端末で自主学习をしても、校内授業のライブ配信を視聴しても、読書や芸術活動をしてもいい。調理実習などは仲間と一緒に活動したりもできます。

愛知県岡崎市では、全国に先駆けてこの取り組みが進められています。中学校に進学した途端不登校になったA子さん。家族や幼馴染の子とは普通に話せるのに、クラスメートが相手だと緊張で心臓がバクバクし「脳が停止するような感じ」で言葉が出なくなり教室に入れなくなりました。担任の勧めで、中3になった時に校内フリースクール通称「F組」に来ました。学校に疲れた子、落ち込んでいる子……。知らない子ばかりでしたが、みんな自分と同じような思いでF組に来ていると感じました。「互いの想いを分かっている安心感があったから、話すのに緊張しなくてもいいのかなと思えた」とAさんは言っています。その後、**クラスに打ち解けたAさんは、どんどん自主的に活動するようになっていきました。**

不登校の子ども達は、決してエネルギーの無いナイーブな子ども達ではありません。むしろ生きようとするエネルギーを強く持っていると感じることもあります。**通常学級に通えることがゴールではありません。**学ぶ場所は何処であっても構わない。大切なのは社会的に自立できる力を身に付けること。窮屈さを感じたら、枠から出た場所で学ぶこともありかなと感じます。

今定例会では、福井県でも不登校対策としてフリースクールを、という清水県議の質問に対し、教育長からは「**今後、校内フリースクールのような『サポート教室』を試験的に設け、効果を検証していきます**」と前向きな答弁がありました。期待したいです!



# ★ 中学校部活動は将来こうなる？

スポーツ庁の有識者会議は、公立中学校の部活動を将来的に地域に移行する提言をまとめました。さしあたって、**土日の部活動を2023～25年までに学校から地域に移行する案を示しています。**

福井県においても、これからいろいろ試行錯誤を繰り返しながら、段階的に地域移行が進められていくと考えられます。

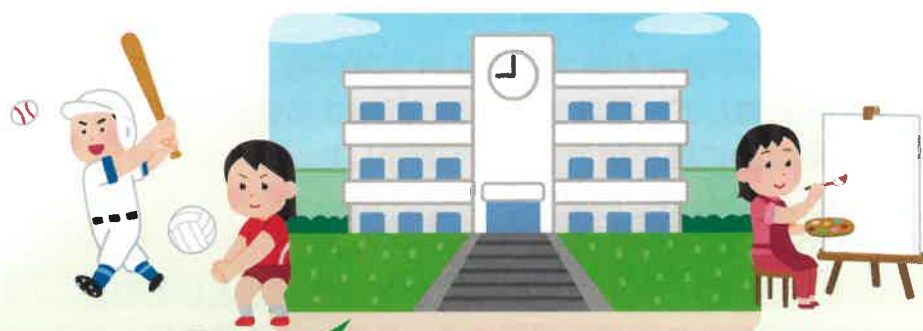
今回、これまでの議論を踏まえて、**私なりの将来的な部活動のイメージを予想してみました。何年後になるかもわかりませんし、必ずしもこうなるとは断言できません。**

しかし議論のたたき台のつもりでお示ししてみます。

皆様の様々なご意見をいただければと思います。

## 〈 将来の部活動のイメージ図 〉

### 近隣中学



例

A 中学

〈体育系〉野球、バレーボール、卓球 など  
〈文科系〉美術、放送、書道 など



バスや自転車で移動

例

B 中学

〈体育系〉ソフトボール、ハンドボール  
バスケットボール など  
〈文科系〉演劇、漫画・イラスト、合唱 など

例

C 中学

〈体育系〉サッカー、軟式テニス  
バドミントン など  
〈文科系〉吹奏楽、新聞、写真 など



具  
体  
案

◎近隣中学校(3~4校)を1つのブロックとし、これまで1校が担っていた部活動を3~4校で分散。生徒が減少しているため。

(どんな部活を置くかは、生徒・保護者・地域の意向を考慮)

◎ブロック内の中学校に在籍する生徒が、ブロック内の希望する部活動に所属する。授業終了後は部活のある学校に移動。(基本は自転車、遠隔の場合は行政が用意するバス)

メ  
リ  
ト

- 部活動の場所として**中学校施設が利用できる。**
- 生徒の部活動場所への移動の負担が比較的少ない。
- 部活動を希望する教職員を指導に充てることで、**指導者不足の解消**が期待できる。

Q&A

Q 指導者は?

A

部活動指導を希望する専門家または教職員。教職員の場合、必ずしも勤務校とは限らず、地元の学校でも可。(大学生もOK!)

Q 指導者の賃金は?

A

非常勤講師の賃金に相当する額が理想。  
※時給1,500円~2,500円程度が理想(行政が補助)

Q 教員が部活を持つと長時間労働問題は?

A

部活動指導に当たる時間は「教員」ではなく、地域クラス指導員(仮称)となる。(ただし兼業規定などの法改正が必要)

Q 県・北信越・全国大会への出場は?

A

これまでの原則中学校単位からクラスチーム単位での出場を可能とする。

Q 入部は全員?

A

原則として希望制。  
既存のクラスチームに所属している生徒はそちらで活動する。

課題は?

1. 生徒数が多い地域では可能だが、少ない地域においては生徒の移動が問題。そもそもブロックに1校しかない場合もありうる。
2. 指導者が希望する部活と生徒が希望する部活のマッチング。(数や種目)
3. 保護者の金銭的な負担。(運営費で行政がどこまで補助できるか)
4. 自転車移動の生徒が増えるので、特に部活後の帰りの安全面。
5. 都道府県にある各種スポーツ協会との連携・整理。  
・・・などなど多数あり。



ぜひ皆様のご意見をお寄せください! (EメールまたはFAXにて  
ご意見をお待ちしております!)

## フリー・トーク



新型コロナ感染症が約2年半続き、県内経済にも大きな影響が出ています。加えてロシアのウクライナへの軍事侵攻の影響で原油や小麦をはじめとした資材価格の高騰、さらに円安が追い打ちをかけ、私たちの暮らしに物価高騰の波が襲い掛かっています。

物価高騰のあおりは、学校給食にも及んでいます。先日、集団登校に付き添っている時のある児童との会話。

私：「給食好きか？」

児童：「好きーっ！」

私：「最近、給食のおかず、少なくなっていない？」

児童：「うーん。あっ！そういえば、この間シシャモが出たんやけど、いつもやったら3本やけど、この間は2本やった！」

やっぱり、学校給食にも影響が出ていました。子ども達の給食の食材やメニューを管理している栄養教諭に話を聞くと、地場産の野菜は高いので使えなくなっている、果物が減っている、鶏のもも肉が胸肉になっている、カロリーやたんぱく質など子ども達の成長のための栄養素の確保に苦労している、とおっしゃっていました。

物価高となると、私たちの財布の中味も気になります。日本人労働者の平均賃金はこの30年間ほぼ横ばいが続いています。さらに厚生年金と健康保険の社会保険料などを控除した平均年収額は1997年度の419万円をピークに下落しており2020年度は373万円、なんと46万円減っています。このままでは今の若者や、将来若者になる子ども達にとって、未来に対して希望の持てない社会となりかねません。

何とか豊かな生活、安心して暮らせる社会の実現に向けて、課題は何かをしっかりと整理し、取り組んでいきたいと思えます！



お困り、  
お悩みなど  
ありましたら  
ぜひ  
ご相談を！

## 渡辺大輔事務所

〒910-0067 福井市新田塚1-70-31

TEL.0776-50-2083 FAX.0776-50-2086

E-mail d-wat571@outlook.jp

<http://watanabe-daisuke.info/>



Facebook用



オフィシャルサイト